

仙台市幼児教育の指針策定にかかる
アンケート調査の結果
【概要版】

平成 29 年 4 月
仙台市子供未来局

仙台市幼児教育の指針策定にかかるアンケート調査の結果【概要版】

1 調査の趣旨

仙台市幼児教育の指針を策定するにあたり、本市の幼児教育にかかる現状と課題を把握するために、日々子どもたちと向き合っている教育・保育施設の方々のご意見を収集する。

2 調査の概要

(1) 調査対象

市内全ての幼稚園、保育所、認定こども園、計258園。

(内訳)

- ①幼稚園 84園 (内訳：私立 82園、公立 2園)
- ②保育所 162園 (内訳：私立122園、公立40園)
- ③認定こども園 12園 (内訳：私立 12園、公立 0園)

(2) 調査期間

平成29年1月17日～平成29年2月10日

(3) 調査項目

「子ども(5歳児)の育ち」や「家庭や地域の子育て」について現状を調査するとともに、「幼児教育」に関する課題や今後特に力を入れて取り組むべきことについて調査。

3 回答状況

	対象数	回答数 (※1、※2)	有効回答数 (※3)	有効回答率
合計	258	245	244	94.6%

※1 平成29年3月3日までに回答があったもの

※2 調査内容が5歳児の育ちに関するものであったため、3歳未満児のみ入所している保育所(3園)から回答を辞退する申し出あり。

※3 5歳児がおらず、3、4歳児の様子で回答しましたとの申し出があった保育所(1園)について有効回答から除外した。

4 アンケート結果

(1) 子どもの育ちについて

【調査内容】

◇幼稚園教育要領の改訂に関して、平成28年8月に公表された「幼児教育部会における審議の取りまとめ」において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として10の項目が示された。

- | | | |
|---------------|-------------------|----------|
| ①健康な心と体 | ②自立心 | ③協同性 |
| ④道徳性・規範意識の芽生え | ⑤社会生活との関わり | ⑥思考力の芽生え |
| ⑦自然との関わり・生命尊重 | ⑧数量・図形、文字等への関心・感覚 | |
| ⑨言葉による伝え合い | ⑩豊かな感性と表現 | |

◇この10の項目を分類として、子どもの育ちに関して一般的に課題として挙げられていることで30の質問を作成し、本市の子どもたちの場合にはどの程度当てはまるのか、最も危惧されているのはどの項目か調査した。

【調査結果概要】

◇30の質問中14の質問で、「そう思う」又は「まあそう思う」の回答率が50%を超えた。(⇒P.3参照)

◇幼児期の終わりまでに育って欲しい姿の項目で見ると、以下の4項目において、「そう思う」「まあそう思う」の回答が50%を超えるものが多かった。

(⇒下表参照)

- (1)健康な心と身体
- (2)自立心
- (4)道徳性・規範意識の芽生え
- (9)言葉による伝え合い

◇今回の調査結果から、本市の子どもの育ちに関する課題として以下が挙げられる。

- ①外で遊ぶ機会が減り、子どもたちの体力、運動機能が低下している。
- ②基本的な生活習慣が身についておらず、生活のリズムが乱れがちな子どもが増えている。
- ③情緒が不安定で、落ち着きがない子どもが増えている。
- ④自分のことは自分で考え、自分でやろうとする力が低下している。
- ⑤困難な場面でも、くじけずにやり抜こうとする力が低下している。
- ⑥自分の思いどおりにならないときに我慢する力や自制心が十分に育っていない。
- ⑦コミュニケーションを苦手とする子どもが増えている。

幼児期の終わりまでに育って欲しい姿	質問番号	質問数	「そう思う」「まあそう思う」が50%を超えた質問数
(1)健康な心と体	①②③④⑤⑥	6	5
(2)自立心	⑦⑧⑨	3	2
(3)協同性	⑩⑪⑫⑬	4	1
(4)道徳性・規範意識の芽生え	⑭⑮⑯	3	2
(5)社会生活との関わり	⑰⑱⑲⑳	4	0
(6)思考力の芽生え	㉑㉒	2	0
(7)自然との関わり・生命尊重			
(8)数量・図形、文字等への関心・感覚	㉓㉔㉕	3	0
(9)言葉による伝え合い	㉖㉗㉘	3	3
(10)豊かな感性と表現	㉙㉚	2	1

30

14

◇質問一覧（「そう思う」「まあそう思う」の回答率が高かった順）

質問番号	質問文	そう思う	まあそう思う	計
1	⑥ 家庭では、室内でゲームをしたり、DVDを見たりして過ごすことが多く、外で遊ばない子どもが増えている。	47.5%	41.4%	88.9%
2	④ 転んだときに手が出ないなど運動機能の低下から、大きな怪我につながりやすい子どもが増えている。	26.6%	44.7%	71.3%
3	③ 散歩で長い距離を歩くとすぐに「疲れた」と言うなど、疲れやすい子どもが増えている。	34.4%	36.1%	70.5%
4	⑱ 自分の思いや感情を言葉で上手く伝えることができない子どもが増えている。	16.0%	52.9%	68.9%
5	⑧ 苦手なことやできないことがあると、すぐにあきらめてしまう子どもが増えている。	15.6%	51.6%	67.2%
6	⑤ 情緒が不安定で、個別の愛着関係を必要とする子どもが増えている。	28.9%	38.0%	66.9%
7	⑳ 見たものや感じたことなどを、自分なりに表現することが苦手な子どもが増えている。	15.6%	44.4%	60.1%
8	⑮ 思い通りにならないと我慢できず、泣いたり、暴れたりするなど自分の気持ちを抑えることができない子どもが増えている。	18.4%	41.4%	59.8%
9	⑰ 集団活動の場面で、集中して話を聞くことができない子どもが増えている。	16.0%	43.4%	59.4%
10	⑯ して良いことや悪いことに自分で気づき、考えて行動する子どもが減っている。	16.5%	41.7%	58.3%
11	⑦ 身の回りのことを自分でやらずに、すぐに大人に頼ろうとする子どもが増えている。	14.3%	42.6%	57.0%
12	② 朝食抜きや夜更かしなどのために、午前中にぼんやりしていたり、眠そうにしていたりする子どもが増えている。	16.4%	38.9%	55.3%
13	⑬ 友達と相談したり、譲り合ったりしながら一緒に遊びを進めていくことが苦手な子どもが増えている。	9.8%	42.2%	52.0%
14	⑲ 友達とトラブルになったときに、自分が悪いとわかっていても自発的に謝ることができない子どもが増えている。	9.8%	41.0%	50.8%
15	⑫ 相手の気持ちに気づいたり、思いやったりすることができない子どもが増えている。	11.5%	38.1%	49.6%
16	⑨ 自己肯定感や自己有用感を持ってない子どもが増えている。	12.3%	36.6%	49.0%
17	⑪ クラス集団の流れに合わせて行動することが苦手な子どもが増えている。	12.3%	36.1%	48.4%
18	⑳ 身近な自然物（砂・水・草・木の実等）に興味をもってかかわったり、試したり、工夫して遊ぶ子どもが減っている。	10.2%	32.0%	42.2%
19	㉒ テレビのニュースや芸能、スポーツなど、社会の様々な出来事に関心を持ち、遊びに取り入れたりする子どもが減っている。	7.8%	33.6%	41.4%
20	① 洗顔、歯磨き、着替えなど、朝の身支度がきちんとできていない子どもが増えている。	9.8%	29.9%	39.8%
21	⑭ 約束や決まりを理解はできるが、守ろうとする気持ちが持てない子どもが増えている。	7.0%	29.9%	36.9%
22	㉑ 自分から友達の輪の中に入ったり、友達を誘って遊ぶことが苦手な子どもが増えている。	7.0%	26.6%	33.6%
23	㉕ 命の大切さがわかり、動植物をいたわり大切にしようとする子どもが減っている。	7.0%	25.9%	32.9%
24	㉙ 美しいもの、不思議なもの、驚くようなものに出会った時に感動する子どもが減っている。	5.7%	20.1%	25.8%
25	㉑ 家庭での楽しかった出来事を先生や友達に話したり、ごっこ遊びに取り入れたりする子どもが減っている。	3.7%	21.3%	25.0%
26	㉘ 生活を通して、前後・左右、曜日、時間等の感覚が理解できていない子どもが増えている。	3.3%	17.6%	20.9%
27	㉓ 自分から進んで年下の子の世話をしたり、先生のお手伝いをしたりする子どもが減っている。	3.3%	15.2%	18.5%
28	⑩ 友達と遊ぶことよりも一人で遊ぶことを好む子どもが増えている。	1.2%	7.8%	9.1%
29	㉖ 10以下の数や量、物の形を理解できない子どもが増えている。	0.8%	6.6%	7.5%
30	㉗ 文字を読み書きすることに興味関心を持ってない子どもが増えている。	0.4%	6.2%	6.6%

(2) 家庭や地域の子育てについて

【調査内容】

◇家庭や地域の子育てに関して一般的に課題として挙げられていることで6つの質問を作成し、本市の場合にはどの程度当てはまるのか調査した。

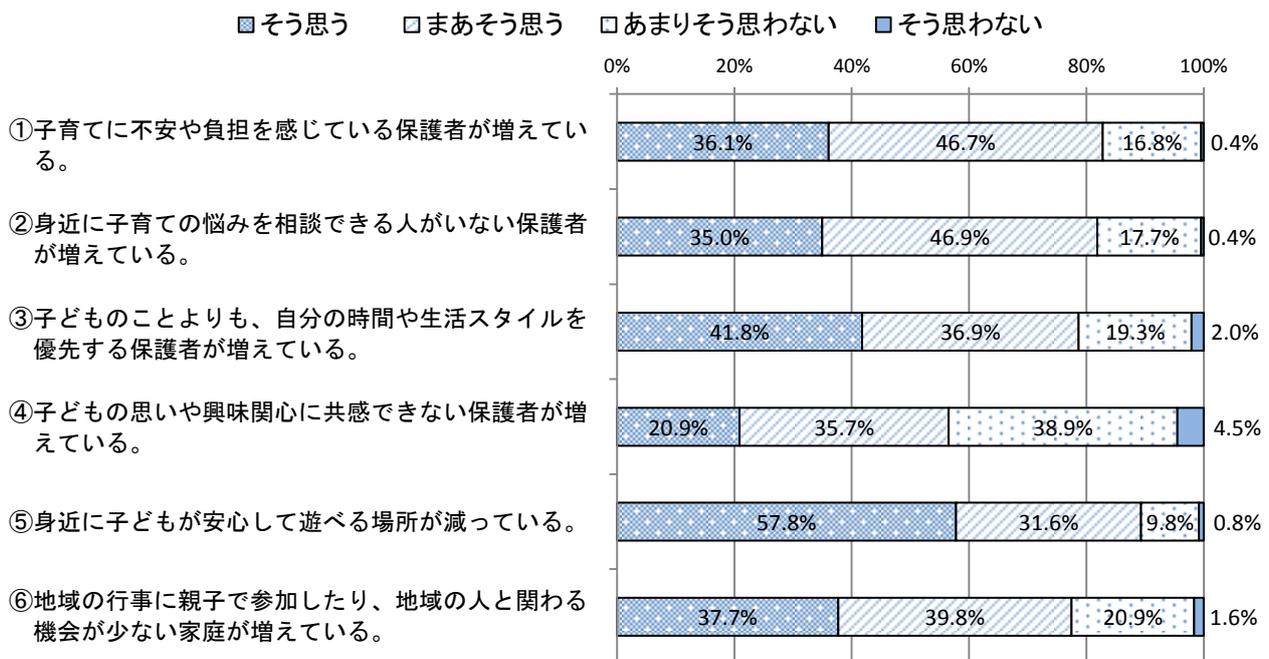
【調査結果概要】

◇6つの質問全てで、「そう思う」又は「まあそう思う」の回答率が50%を超えた。
(⇒【調査結果】参照)

◇今回の調査結果から、家庭や地域の子育てに関する課題として以下が挙げられる。

- ①身近に悩みを相談できる人がいなく、子育てに不安や負担を感じている保護者が増えている。
- ②保護者の生活スタイルが優先され、子どもの生活リズムや生活習慣に大きな影響を与えている。
- ③身近な場所で遊んだり、地域の行事に参加して地域の方と関わったりする機会が少なくなり、子どもが地域の中で育つ機会が減っている。

【調査結果】



(3) 幼児教育について

- ① 幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思えますか。
- ② ①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思えますか。
- ③ ②に記入していただいた取組のほかに、今後特に力を入れて取り組むべきと考えることがあれば、記入願います。

【調査結果概要①】

自由記述形式で回答していただいた「幼児教育の現在の一番の課題」の回答内容を分類・分析したところ、主な回答は以下に記載の「幼児教育について」「子どもの育ちについて」「子育て家庭について」の3分類、計12項目に集約された。

◇幼児教育について

①幼児教育への正しい理解とその重要性を社会全体で理解すること

- ・幼児期における教育のあるべき姿について正しく理解されていない。
- ・幼児教育の重要性について、保護者、教育者、保育者、社会全体で認識が共有されていない。
- ・知識の詰め込みや小学校の学習の先取りが幼児教育と考えられ、持てはやされる傾向がある。
- ・「できる」「できない」の評価で子どもをみる傾向がある。

②幼児教育・保育の質の向上

- ・人材の確保
- ・人材の育成、教育・保育者の資質の向上、意欲の向上
- ・労働環境の充実（働きやすい環境づくり、働き続けられる環境づくり、処遇改善）
- ・教育者、保育者自身の様々な経験が不足している。

③家庭との連携

- ・様々な家庭背景があり、価値観も多様化する中で、保護者の理解と協力を得ながら教育・保育を実践していく必要がある。
- ・保育所における教育への取組が保護者に十分に理解されていない。

④特別な配慮を必要とする子どもへの対応

- ・発達障害等特別な配慮を必要とする子どもが増えている。

⑤幼保小のさらなる連携

- ・小学校との連携が薄いため入学後の不安がある。
- ・子どもの発達や学びの連続性を確保し小学校との連携を図っていく必要がある。

◇子どもの育ちについて

⑥身体機能の低下

- ・身体を使って遊ぶ機会や場所が激減している。
- ・子どもの体力や運動機能が低下している。

⑦非認知的能力、社会情動的スキル、自己肯定感の向上

※以下の文言を用いて上記能力等の向上を挙げる回答が多かった。
生きる力、学びに向かう力、自分で考え行動する力、自主性、自立心、自発性、心の教育、思いやりの心、社会性、規範意識、意欲、粘り強さ、好奇心、探究心、コミュニケーション能力、協同性、善悪の判断力など

⑧基本的な生活習慣の確立

- ・生活リズムや食生活（朝食の欠食や肥満等）が乱れている。
- ・親の都合やライフスタイルが優先され、親の生活リズムに子どもが合わせられている。

⑨実体験（生活体験、自然体験、社会経験）の不足

- ・地域の中に安心して遊べる場所がなく、様々な遊びを体験する機会が少なくなっている。
- ・異年齢の子どもや同年齢の子どもと、群れて遊び込む経験が少なくなっている。
- ・自然と関わる経験が乏しい。
- ・日本独自の伝統文化の継承が廃れつつある。
- ・五感で様々なことを感じられる環境や経験できる場面を設定する機会が減ってきている。

⑩電子機器の長時間使用等の健康への影響

- ・ゲーム機器やスマートフォンなどの電子機器に触れる時間が長くなっており、心身の健康への影響が危惧される。

◇子育て家庭について

⑪親子の関わりの希薄化、大人との愛着形成が不十分

- ・長時間労働や長時間保育の利用により、親が子どもと接する時間が少なくなっている。
- ・子ども自身が、親に愛され見守られている実感が持てないでいる。
- ・自分が大切にされているという実感を人との関わりの中で持つことができにくくなっている。
- ・乳幼児期に大人とのしっかりとした愛着関係を育て、安定した情緒を土台に自己肯定感を育むことが必要。

⑫家庭の子育て力、教育力の低下

- ・身近に相談相手がいないため、子育てに不安や負担を感じている保護者が多い。
- ・情報過多の中で、情報に振り回されて不安を感じている保護者が多い。
- ・子育ての大変さばかりがクローズアップされ、子育ての楽しさを知らない、知ろうとしない保護者が増えている。
- ・子育てに対する意識が低い保護者が見受けられる。
- ・親が保育所や幼稚園に過度に依存し、本来は家庭で行うべきしつけや基本的な生活習慣が身につけていない子どもが増えている。
- ・保護者が疾患を持っている等養育力に不安がある子育て家庭への支援が必要。

【調査結果概要②③】

自由記述形式で回答していただいた「課題解決に向けた取組」「その他今後特に力を入れるべき取組」の主な回答は以下のとおり。

◇幼児教育について

課題	取組
①幼児教育への正しい理解とその重要性を社会全体で理解すること	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育のあるべき姿を整理、明文化し、現場で実践すること。また、保護者にも伝えること。 ・幼児教育が、早期教育ではなく幼児期にしかできない沢山の豊かな体験から学んでいくことが大切であることを、教育の現場から発信し続けること。 ・保護者に向けた幼児教育についての啓蒙活動 ・保護者に園の建学の精神と教育について理解と協力を求めていくこと ・保護者に保育所における教育への理解を深めてもらう工夫 ・学識経験者が幼児教育について世論に伝える ・保育士自身が毎年幼児教育について理解を深めていけるような研修体系の構築を図り、資質の向上を図っていく。 ・保護者向けの掲示物の中で養護・教育の項目を設け、アピールしていく ・幼児期に大事にしたいこと、育てたいことなどを保育者と保護者の中で確認、伝え合う場を持つ ・幼児期に育みたい資質などの明確化
②幼児教育・保育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体系的な研修の実施 ・園内研修（OJT）の充実 ・職員が学び合う機会の設定 ・研修に参加できる体制づくり ・職員個々のフォローアップ体制の強化 ・教職員のチームワーク向上（園児に関する情報交換等連絡を密にする） ・他園の活動等の見学や交流 ・処遇改善、労働条件の改善 ・働き続けられる環境づくり ・離職防止対策
③家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・園での取組や幼児の様子を伝えながら保護者の意識を高める ・子どもの特性を保護者が理解できる機会を増やす ・親子で保育に参加する機会を増やす ・幼児教育、幼稚園の方針に家庭の理解・協力を得る ・園と保護者が連携し、それぞれの役割をしっかりと果たしていく取組 ・保護者との意思疎通を良くするために話し合う回数を多く設ける
④特別な配慮を必要とする子どもへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援を要す（いわゆる気になる子）について行政として把握し、補助や、入園前→在園→卒園前→小学校就学の流れを作ること。 ・インクルーシブ教育の現場経験者に個々の園の悩みなどをサポートしてもらえるような体制づくり ・保護者への情報公開（同じ立場の方々の情報共有・悩み相談の場など）が身近なところにあり、保護者自身の悩みを受け止め、子育て観を前向きにさせてあげられる支援
⑤幼保小のさらなる連携	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教諭の幼稚園・保育園見学 ・小学校との連携を義務化し、異年齢交流のマニュアルを整備する。 ・小学校との接続についての在り方の議論とアプローチカリキュラムを実践の中でどう取り組んでいくかの明確化 ・互いの教員がそれぞれの施設を見学し合ったり、学び合い情報を共有し合えるような場の設定。 ・保育所で行っている教育について小学校に理解してもらえるような連携 ・幼児教育と初等教育の異同を各現場が共通認識しそのうえで子どもの発達連続性をどのように支えていくかを検討する。 ・学校見学や児童との交流だけでなく、小学校の教員と一緒に学ぶ場や、意見や情報を交換する場の設定

◇子どもの育ちについて

課題	取組
⑥身体機能の低下	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育の中に、計画的に運動遊びを取り入れ、体を動かす機会を作り、体を動かす楽しさを知らせていく。 ・外で身体を使って遊ぶ経験や時間をしっかり確保する。 ・散歩など自然の中に出ていく機会を多くする
⑦非認知的能力、社会情動的スキル、自己肯定感の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体験型保育、失敗を恐れず過程から学びとる教育の推進 ・子どもの遊びの質を高め、より楽しいものにする ・集団生活の中で多くの人との関係性を持つ機会を増やす ・先生主導の設定保育ばかりではなく、子どもたちが選択し、自分たちの考えを具体化できる環境をつくる ・大人主導の管理型保育ではなく、子ども一人一人の個性をしっかりと捉えたうえで、子どもの自発性を尊重し、子どもが伸びようとする力を引き出していく保育の取組 ・子どもたちが自発的に取り組み、達成感が味わえるような活動や機会を設ける。 ・自己肯定感を育てる取組 ・様々な体験の中で決まりの大切さをきちんと知らせていく ・異年齢構成の生活と活動を積極的に取り入れる ・周りが答えや道筋を作るのではなく、子ども自身が考え、「やってみよう」とする強さが育つような保育環境づくり
⑧基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の大切さを伝えていく場の設定 ・保護者も含めた生活習慣の見直しと改善 ・「早寝・早起き・朝ごはん」のようなプロジェクトでの啓蒙 ・子供が十分に体を動かしたり、自然に触れたりしながら遊び、生活リズムを整えながら心豊かに育つための環境整備 ・子ども自身が食事に興味を持てるような食育活動
⑨実体験(生活体験、自然体験、社会経験)の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが日々の生活の中で、様々な経験ができるように、遊びや活動を充実させていく。 ・自然の中での実体験 ・たくさんの人との関わり ・家庭で経験することが難しくなっている戸外遊びや、小学生やお年寄り等地域交流の充実
⑩電子機器の長時間使用等の健康への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器の取り扱いについて、子どもへの影響を含めて健診や児童施設などで講話を入れながらパンフレットを配布する。 ・メディアの影響の怖さを保護者や子どもに繰り返し伝えることと実体験の楽しさを提供すること ・子どもとメディアとの時間が、本来乳幼児期に学んでほしい大切なもの(親子の時間・人との関わりなどを通して習得すること)を奪っている現状を具体的な例を挙げて伝える。

◇子育て家庭について

課題	取組
⑪親子の関わりの希薄化、大人との愛着形成が不十分	<ul style="list-style-type: none"> ・親としての心構えや子育てについて学ぶ機会の設定 ・親子で関わりが持てる行事の取組、保護者も巻き込んだ活動 ・各年齢において信頼できる大人との安心感の基盤づくり ・保護者も含め、人とのふれあいの大切さを伝える機会の創出 ・就学前の子を持つ親のあり方の見直し ・働き方の改革、労働時間の短縮

<p>⑫家庭の子育て力、 教育力の低下</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への子育て支援 ・きめ細かな子育て支援体制づくり ・子育てに関する情報の提供と気軽に相談できる場の提供 ・家庭で取り組んで欲しいことを明確に伝えるとともに、方法を具体的に示すこと。 ・保護者主体の子育てができるように啓蒙していくこと ・子育てに関する不安や悩みを共有できる場の確保 ・保護者同士が相談し合い、交流する場の設定 ・懇談会や外部講師による子育て講習会の開催 ・妊婦を対象とした教育の機会を増やす ・乳幼児の保護者を対象とした教育の機会を増やす ・高校生への子育て教育（学校での授業、幼稚園・保育所見学）
-----------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

◇その他

課題	取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育予算の拡充 ・幼児教育の無償化 ・子育てへの財政支援（医療費助成、子ども手当） ・子どもの虐待や貧困家庭に対する支援 ・子育てにやさしい社会的環境整備（育児に対する職場環境－育休・時短・休暇が取れやすい職場等） ・幼稚園教育要領の抜本的見直し ・主管官庁の一本化